

連 結 財 務 書 類

連結貸借対照表

(令和6年3月31日現在)

(単位:百万円)

科目	金額	科目	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	604,921	固定負債	286,735
有形固定資産	585,199	地方債	192,068
事業用資産	233,553	長期未払金	
土地	121,724	退職手当引当金	18,010
立木竹	37	損失補償等引当金	22
建物	199,646	その他	76,635
建物減価償却累計額	△97,325	流動負債	24,337
工作物	38,887	1年内償還予定地方債	17,826
工作物減価償却累計額	△29,933	未払金	2,384
船舶		未払費用	
船舶減価償却累計額		前受金	84
浮標等		前受収益	
浮標等減価償却累計額		賞与等引当金	1,673
航空機		預り金	1,025
航空機減価償却累計額		その他	1,345
その他		負債合計	311,072
その他減価償却累計額		【純資産の部】	
建設仮勘定	516	固定資産等形成分	645,998
インフラ資産	335,080	余剰分(不足分)	△312,063
土地	94,924		
建物	22,975		
建物減価償却累計額	△10,717		
工作物	405,192		
工作物減価償却累計額	△183,923		
その他			
その他減価償却累計額			
建設仮勘定	6,628		
物品	53,245		
物品減価償却累計額	△36,678		
無形固定資産	3,907		
ソフトウェア	6		
その他	3,902		
投資その他の資産	15,814		
投資及び出資金	915		
有価証券	257		
出資金	659		
その他			
投資損失引当金			
長期延滞債権	2,183		
長期貸付金	3,034		
基金	9,738		
減債基金	1,731		
その他	8,007		
その他	146		
徴収不能引当金	△202		
流動資産	40,086		
現金預金	26,460		
未収金	3,728		
短期貸付金	148		
基金	4,188		
財政調整基金	4,188		
減債基金			
棚卸資産	5,003		
その他	692		
徴収不能引当金	△133	純資産合計	333,935
資産合計	645,007	負債及び純資産合計	645,007

連結行政コスト計算書

自 令和5年4月1日

至 令和6年3月31日

(単位:百万円)

科目	金額
経常費用	216,406
業務費用	97,454
人件費	27,784
職員給与費	23,333
賞与等引当金繰入額	185
退職手当引当金繰入額	907
その他	3,358
物件費等	66,469
物件費	45,074
維持補修費	6,464
減価償却費	14,664
その他	268
その他の業務費用	3,201
支払利息	1,714
徴収不能引当金繰入額	52
その他	1,436
移転費用	118,952
補助金等	94,353
社会保障給付	23,589
他会計への繰出金	
その他	1,010
経常収益	29,894
使用料及び手数料	21,713
その他	8,181
純経常行政コスト	186,512
臨時損失	2,519
災害復旧事業費	52
資産除売却損	2,204
投資損失引当金繰入額	
損失補償等引当金繰入額	13
その他	251
臨時利益	296
資産売却益	125
その他	171
純行政コスト	188,735

連結純資産変動計算書

自 令和5年4月1日
至 令和6年3月31日

(単位: 百万円)

科目	合計	固定資産 等形成分	余剰分 (不足分)	他団体出資等分
前年度末純資産残高	339,735	624,795	△285,060	
純行政コスト(△)	△188,735		△188,735	
財源	207,175		207,175	
税金等	136,169		136,169	
国県等補助金	71,007		71,007	
本年度差額	18,440		18,440	
固定資産等の変動(内部変動)		△2,740	2,740	
有形固定資産等の増加		12,793	△12,793	
有形固定資産等の減少		△14,664	14,664	
貸付金・基金等の増加		6,303	△6,303	
貸付金・基金等の減少		△7,171	7,171	
資産評価差額				
無償所管換等	3,178	3,178		
比例連結割合に伴う差額	△150	△150		
その他	△27,268	20,915	△48,183	
本年度純資産変動額	△5,800	21,203	△27,003	
本年度末純資産残高	333,935	645,998	△312,063	

【様式第4号】

連結資金収支計算書

自 令和5年4月1日
至 令和6年3月31日

(単位:百万円)

科目	金額
【業務活動収支】	
業務支出	188,376
業務費用支出	69,477
人件費支出	27,707
物件費等支出	38,380
支払利息支出	1,711
その他の支出	1,680
移転費用支出	118,899
補助金等支出	94,300
社会保障給付支出	23,589
他会計への繰出支出	
その他の支出	1,010
業務収入	203,984
税込等収入	106,979
国県等補助金収入	66,936
使用料及び手数料収入	21,822
その他の収入	8,248
臨時支出	301
災害復旧事業費支出	52
その他の支出	249
臨時収入	156
業務活動収支	15,464
【投資活動収支】	
投資活動支出	19,125
公共施設等整備費支出	12,793
基金積立金支出	2,844
投資及び出資金支出	16
貸付金支出	3,443
その他の支出	29
投資活動収入	12,393
国県等補助金収入	4,778
基金取崩収入	3,303
貸付金元金回収収入	3,868
資産売却収入	268
その他の収入	176
投資活動収支	△6,731
【財務活動収支】	
財務活動支出	16,861
地方債償還支出	16,859
その他の支出	2
財務活動収入	12,897
地方債発行収入	12,886
その他の収入	10
財務活動収支	△3,964
本年度資金収支額	4,769
前年度末資金残高	20,754
比例連結割合変更に伴う差額	3
本年度末資金残高	25,526
前年度末歳計外現金残高	945
本年度歳計外現金増減額	△11
本年度末歳計外現金残高	935
本年度末現金預金残高	26,460

連結財務書類 注記

1 重要な会計方針

(1) 有形固定資産及び無形固定資産の評価基準及び評価方法

① 有形固定資産・・・取得原価

ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

ア 昭和59年度以前に取得したもの・・・再調達原価

ただし、道路、河川及び水路の敷地については、備忘価格1円で評価しています。

イ 昭和60年度以降に取得したもの

取得原価が判明しているもの・・・取得原価

取得原価が不明なもの・・・再調達原価

ただし、取得原価が不明な道路、河川及び水路の敷地については、備忘価格1円としています。

② 無形固定資産・・・取得原価

ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

取得原価が判明しているもの・・・取得原価

取得原価が不明なもの・・・再調達原価

(2) 有価証券及び出資金の評価基準及び評価方法

① 満期保有目的有価証券・・・償却原価法(定額法)

② 満期保有目的以外の有価証券

ア 市場価格のあるもの・・・会計年度末における市場価格(売却原価は移動平均法により算定)

イ 市場価格がないもの・・・取得原価

③ 出資金

ア 市場価格のあるもの・・・会計年度末における市場価格(売却原価は移動平均法により算定)

イ 市場価格がないもの・・・出資金額

なお、一部の連結対象団体においては、原則、取得原価としています。

(3) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

個別法による低価法

ただし、一部の連結対象団体においては先入先出法に基づく原価法、移動平均法による原価法によっています。

(4) 有形固定資産等の減価償却の方法

① 有形固定資産(リース資産を除きます。)・・・定額法

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物 14年～50年

工作物 7年～50年

物品 2年～20年

ただし、一部の連結対象団体については定率法によっています。

② 無形固定資産(リース資産を除きます。)・・・定額法

(ソフトウェアについては、当市における見込利用期間(5年)に基づく定額法によっています。)

- ③ 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産(リース期間が1年以内のリース取引及びリース契約1件あたりのリース料総額が300万円以下のファイナンス・リース取引を除きます。)

・・・自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法

(5) 引当金の計上基準及び算定方法

① 投資損失引当金

市場価格のない投資及び出資金のうち、連結対象団体会計に対するものについて、実質価額が著しく低下した場合における実質価額と取得価額との差額を計上しています。

② 徴収不能引当金

未収金については、過去5年間の平均不納欠損率により、徴収不能見込額を計上しています。

長期延滞債権については、過去5年の平均不納欠損率により、徴収不能見込額を計上しています。

長期貸付金については、過去5年の平均不納欠損率により、徴収不能見込額を計上しています。

③ 退職手当引当金

期末自己都合要支給額を計上しています。

④ 損失補償等引当金

履行すべき額が確定していない損失補償債務等のうち、地方公共団体の財政の健全化に関する法律に規則する将来負担比率の算定に含めた将来負担額を計上しています。

⑤ 賞与等引当金

翌年度6月支給予定の期末手当及び勤勉手当並びにそれらに係る法定福利費相当額の見込額について、それぞれ本会計年度の期間に対応する部分を計上しています。

(6) リース取引の処理方法

① ファイナンス・リース取引

ア 所有権移転ファイナンス・リース取引(リース期間が1年以内のリース取引及びリース料総額が300万円以下のファイナンス・リース取引を除きます。)

通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

イ ア以外のファイナンス・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

(7) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。ただし、一部の連結対象会計については、税抜方式によっています。

(8) 連結対象会計の決算日が一般会計等と異なる場合の処理

決算日と連結決算日の差異が3か月を超えない連結対象団体については当該連結対象団体の決算を基礎として連結手続を行っていますが、決算日と連結決算日との間に生じた重要な取引については連結上必要な調整を行っています。

2 重要な会計方針の変更

(1) 会計方針の変更

該当ありません。

(2) 表示方法の変更

該当ありません。

3 重要な後発事象

(1) 主要な業務の改廃

該当ありません。

(2) 組織・機構の大幅な変更

該当ありません。

(3) 地方財政制度の大幅な改正

該当ありません。

(4) 重大な災害等の発生

該当ありません。

4 偶発債務

(1) 保証債務及び損失補償債務負担の状況

他の団体(会計)の金融機関等からの借入債務に対し、保証を行っています。

(単位:百万円)

団体(会計)名	確定債務 総額	履行すべき額が確定していない 損失補償債務等		総額
		損失補償等引当金 計上額	貸借対照表 未計上額	
山形市都市振興公社	-	22	-	22
計	-	22	-	22

(2) 係争中の訴訟等

該当ありません。

5 追加情報

(1) 財務書類の内容を理解するために必要と認められる事項

連結財務書類の対象範囲は次のとおりです。

区分	中区分	会計・法人名等	連結対象	主たる事業の内容等
一般会計等		普通会計 (一般会計、区画整理事業会計、母子父子 寡婦福祉資金貸付事業会計)	○	
全体会計	法適用公営企業	病院事業会計	○	
		水道事業会計	○	
		下水道事業会計	○	
	法非適公営企業	公設地方卸売市場事業会計	○	
		農業集落排水事業会計	○	

区分	中区分	会計・法人名等	連結対象	主たる事業の内容等
全体会計	公営事業会計	国民健康保険事業会計	○	
		後期高齢者医療事業会計	○	
		介護保険事業会計	○	
		駐車場事業会計	○	
連結会計	一部事務組合・広域連合	山形県消防補償等組合	○	消防組織法に基づく非常勤消防団員に対する公務災害補償及び退職報償金の支給に関する事務等を共同処理すること(全市町村により組織)
		山形県自治会館管理組合	○	山形県自治会館の取得及びその維持管理に関する事務を共同処理すること(全市町村により組織)
		山形広域環境事務組合	○	し尿処理施設の設置、管理及び運営に関する事務等を共同処理すること(山形市、上山市、山辺町及び中山町)
		山形県後期高齢者医療広域連合	○	高齢者の医療の確保に関する法律に規定する後期高齢者医療制度の事務の一部を共同処理すること(全市町村により組織)
	地方三公社	山形市土地開発公社	○	公共用地・公用地等の取得、管理及び処分等
	第三セクター等	山形市都市振興公社	○	公共用地等の取得、造成及び駐車場等公共施設の運営管理等
		山形市文化振興事業団	○	山寺芭蕉記念館、最上義光歴史権の運営管理等
		山形市健康福祉医療事業団	○	老人保健施設の運営管理等
		山形コンベンションビューロー	○	コンベンション誘致、山形国際交流プラザの運営管理等
		山形市農業振興公社	○	青果物の価格補償、農作業の受託及び支援等
		山形市上下水道技術センター	○	水道メーターの交換等
		山形市社会福祉事業団	○	福祉施設の運営管理等

(2) 地方自治法235条の5に基づき出納整理期間が設けられている会計においては、出納整理期間における現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としています。

なお、出納整理期間を設けていない会計と出納整理期間を設けている会計との間で、出納整理期間に現金の受払い等があった場合は、現金の受払い等が終了したものとして調整しています。

(3) 百万円未満を四捨五入して表示しているため、合計金額が一致しない場合があります。

(4) 売却可能資産の範囲及び内訳は、次のとおりです。

ア 範囲

現在活用されていない普通財産

イ 内訳

事業用資産 964百万円

土地 964百万円

令和6年3月31日時点における売却可能価額は、貸借対照表における簿価を記載しています。